

9/29（月）がんといのちの授業

第 2 回学校保健委員会「がんといのちの授業」を行います。

<ねらい>

- ①小児がんの少女と家族の姿を通じて、いのちの大切さや家族の絆「がん+いのち」を学ぶ。
- ②将来にわたって、いのちを大切にする心を育む。

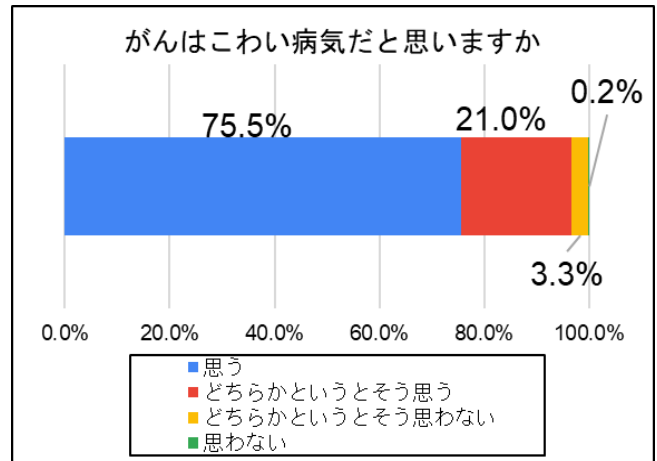
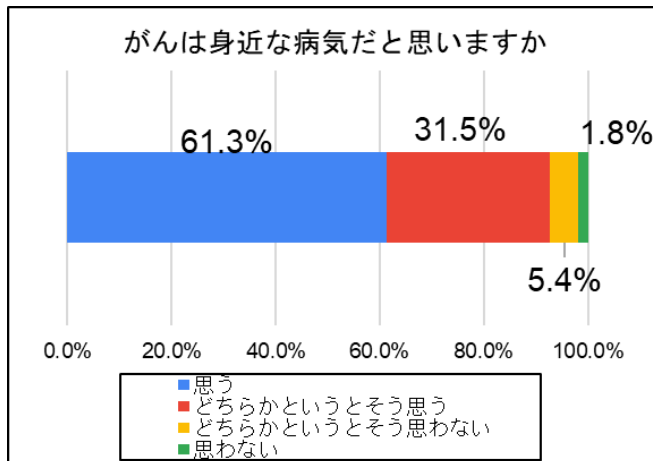
<講 師>

いのちをバトンタッチする会代表 鈴木中人先生

正しい知識と行動が、がんを予防し、いのちを大切にするにつながり、心身の健康を保つことができます。今後の生活に生かしましょう。

9 月 3 日（水）「がんについての事前アンケート」を全学年で実施しました。

アンケート結果から、がんは、身近でこわい病気だと思っている人が多くいました。健康な生活を送るために、がんについて正しく理解することが大切です。

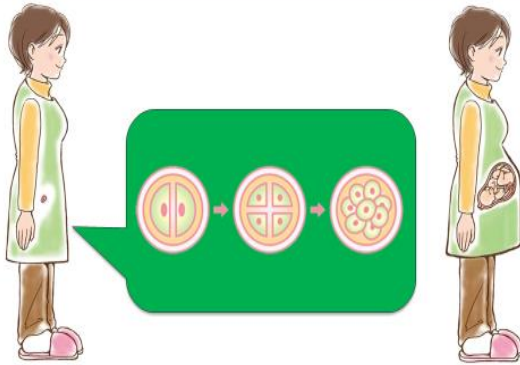


「がんを身近な病気だと思う・どちらかというと思う」と答えた人は 92.8%でした。がんにかかる人は増え続けており、2人に1人は一生のうちに発症するといわれています。日本人の死亡原因の第 1 位となっています。

96.5%の人が、「がんはこわい病気だと思う・どちらかというと思う」と回答していました。がんは早期発見できれば約9割は治すことができるといわれており、治療法の進歩も伴って「不治の病気」ではなく「長く付き合う病気」になりつつあります。早い段階でがんを発見するためにも検診を受けることが大切です。

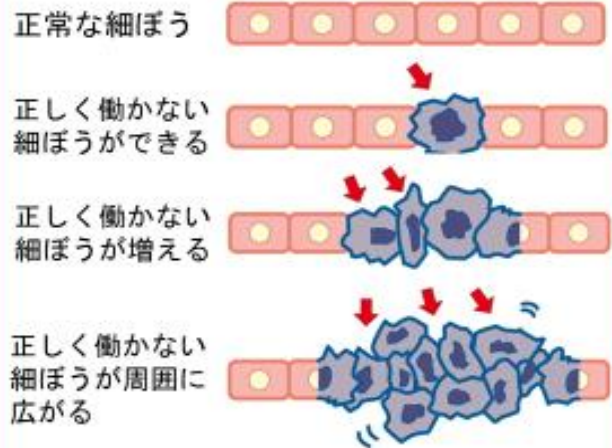
がんについて知ろう

体は細胞からできています



小さな1つの細胞が増えて人間になる

がんができる仕組み



私たちの体は細胞からできています。私たちの体の中では、その細胞の一部が傷ついて壊れてしまい、正しく働かない細胞が増えることがあります。しかし、私たちの体の中には、その傷ついた細胞を修理してくれる働きもあります。けれども、傷ついた細胞の修理が追いつかなかったり、傷ついた細胞を見逃してしまったりすると、正しく働かない細胞がどんどん増えて、体に悪い影響を与えてしまいます。これが「がん」という病気です。

がんになるリスクを防ぐには・・・

喫煙・受動喫煙・飲酒・食事（野菜不足、脂肪の取りすぎなど）・運動不足など

生活
習慣

細菌・
ウイルス

遺伝的
要因

感染対策をする

がん検診を受ける

主ながんの原因は、細菌やウイルス、持って生まれた体質などさまざまですが、望ましい生活習慣でがんを予防することができますと言われています。

研究によると、たばこを吸わないこと、たばこを吸っている人の煙を吸わないこと、お酒をたくさん飲まないことが予防法としてあげられます。がんは多数の要因が重なり合い、細胞の異変がいつも起こっていて、長い時間がかかって発病する病気です。望ましい生活習慣を続けていくことが大切です。

また、がん検診（胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮がんなど）を受診年齢になったら受け、早期発見に努めましょう。